

平成27年度
中間市総合教育会議
(第2回)

- | | | | |
|---------|------------------------|----------|------|
| 1 日 時 | 平成27年7月23日(木) 午前10時00分 | | |
| 2 場 所 | 市庁舎 本館 第一委員会室 | | |
| 3 構 成 員 | 松下市長 | 河本委員長 | 中尾委員 |
| | 衛藤委員 | 増田教育長 | |
| 4 欠 席 | 齊田委員 | | |
| 5 事 務 局 | 濱田教育部長 | 田中教育総務課長 | |
| | 片平学校教育課長 | 古賀生涯学習課長 | |
| | 江藤教育総務課総務係長 | | |

総合教育会議議事日程

平成27年7月23日（木）午前10時00分

- 1 開 会
（1）市長あいさつ

- 2 議 事
（1）教育に関する大綱策定について

- 3 その他

- 4 閉 会

<配布資料>

- ・中間市教育大綱（案）

[開会時刻：午前10時00分]

濱田教育部長

では、定刻になりましたので、只今から平成27年度第2回中間市総合教育会議を開催いたします。第1回総合教育会議を5月27日に開催いたしました。その中で、教育に関する大綱について、内容をもう少しわかりやすくした方が良くはないかという意見がございましたので、今日は、見直した大綱案を協議していただきたいと考えております。

それでは、会議次第により、会議を進めさせていただきます。

まず、最初に松下市長よりご挨拶をいただきます。

松下市長

どうも皆さん方、今日は忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。今年になって、2回目ということでございます。今回も前回に引き続いて大綱案を協議していきたいと思っております。また、皆さん方には、日頃より当市の教育行政の為に大変な尽力を賜っております。感謝いたしております。

それと、遠賀川水源地ポンプ室が世界遺産登録になり、これは、ほんとうに大変うれしいことございまして、今回これだけの大きな世界遺産ということで、市民の皆さん、また、学生の皆さん方も、十分認識していただいていると思っております。そういう中で、中間市に世界遺産がありますよ、世界遺産のある中間市ですよということを、今度皆さん言えますから、それが、私、1番うれしいなという思いでおります。世界遺産を活用しながら、垣生の安川電機のロボット工場やフットパス等々を組み合わせながら、よそにない観光政策を提案していきたいと思っております。

それと、日本体育大学との体育スポーツの振興に関する協定書ですが、これも県下で初めてでございますし、九州でも2番目、島原市に次いでのものでございます。今後この協定に基づきさまざまな企画を検討していきたいと思っております。

それと、議員さんの協力理解をいただきまして、今回、エアコンの設置を夏休みにするようにしております。これは、100%単費でございます。

国に対してエアコンの補助金を要望しておりましたが、補助金をもらえないという結果になりました。私の選挙公約でもありますし、そういうことも含めて、少し無理をして、実施に踏み切りました。

昨年は、中学校の給食、今度は、エアコンの設置ということで、教育環境の整備は私も十分してきているという自負はございます。そういう中で、子どもたちの学力向上と、今も大きな問題になっております、いじめですね、いじめ対策等々ですね。教育長・教育委員会には、足早にいじめ

等々に対して、取り組んでいただいております、大きくならずにすんでいるところがございます。子どもの数ほど、後ろにその家庭があるわけでもございまして、それを教育委員会が、見ていかないといけないという、大変なお仕事だと思っております。そういう中で皆さん頑張っております、我々も感謝しております。どうぞ、今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

濱田教育部長

ありがとうございました。これより、議事に入らせていただきます。議事は、市長に進めていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

松下市長

それでは、早速、議事の第1でございます。教育に関する大綱策定について、事務局の方から説明をお願いいたします。

田中教育総務課長

はい。それでは、中間市教育大綱の案についてご説明させていただきます。資料につけております。

まず、基本理念ですが、次世代を担う教育の実現と致しまして、サブタイトルを、人を育むスポーツと文化の元気なまちづくりとしております。基本方針といたしまして、3つあげております。

1つ目は、個を生かす学校教育の充実による確かな学力の育成と致しまして、その内容としては、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行い、児童生徒の学力の向上及び定着を図ります。

次に、特別な支援を必要とする児童生徒の教育の充実・深化に努めます。

次に、安全で個性や能力を活かす教育環境づくりのため、学校施設の整備を進め、学校教育の充実を図りますとしております。

2つ目の基本方針といたしまして、豊かな心と健やかな体の育成とし、この内容といたしましては、児童生徒の豊かな心を育成するため、道徳教育の充実、人権教育の推進に努めます。

次に、児童生徒の健やかな成長と人格の形成を目指し、家庭・地域社会と密接な連携による生徒指導の充実を図り、信頼される学校づくりの推進に努めます。

次に、児童生徒の健康・体力の増進のため、健康教育及び食育の充実と体力づくりの推進に努めますとしております。

3つ目の基本方針といたしまして、生涯学習を推進し、いきいきと楽しく、心ふれあう学びの社会の実現としております。

この内容といたしましては、市民が生涯を通して学ぶことができるいろ

いろな事業を積極的に実施し、青少年の健全育成や生きがいつくりの推進に努めます。

次に、子どもから高齢者までが身近にスポーツを楽しむことができる環境づくりをすすめ、市民の健康とスポーツの普及・振興を図ります。

次に、明治日本の産業革命遺産のあるまちとして郷土愛の醸成を図るとともに、貴重な史跡や文化財の継承を通して未来につながるまちづくりの推進に努めますとしております。

以上が、中間市教育大綱案につきましての説明でございます。

松下市長

はい、ありがとうございます。

前回からどのように変更したかを事務局から説明願います。

田中教育総務
課長

はい。前は基本方針の中で、今回は大きな方針みたいなものにしていたんですが、前は、英語活動アドバイザーとか、35人学級とかいう、一つひとつの事業・施策を一緒に盛り込んでおりました。そこで、左京委員から、概念的なものとは施策を分けた方がいいのではないかと、わかりやすいように、できるだけわかりやすく簡単にされた方がいいのではないかとという意見をいただきまして、それで、今回、教育委員さんとも、打合せをしながら、作り上げたところでございます。

松下市長

大綱らしく、すっきりした方がいいのではないかと。それで、どういう施策をされるかわかりませんが、施策に対する何か出されるのですかね。大綱に基づいてこういうことしますよって、別添か何かわかりませんが。

田中教育総務
課長

はい、大綱とはまた別に、教育委員会の主な取り組みということで、また別に。

松下市長

別に出すということですね。その中で、さっき言ったような、提案していくという話でございますので。この大綱につきまして、協議いただいて、ご意見があれば、賜りたいと思っております。

だいたい他の市も同じような内容なのかな。

田中教育総務
課長

いいえ、やっぱり違います。根本は同じですが、表現とかですね。やっぱり力を入れているところの違いとかございますので。

松下市長

中間市の力を入れているところはなんですか。

田中教育総務
課長

全部でございます。

松下市長

何かご意見があればどうぞ。

衛藤委員

今、市長が言われた理念と基本方針は、だいたいどこも同じようなスタイルになっているみたいです。全国的に、色々調べてみたらですね。方針の中身が、それぞれの地域の実態、市町村の実態、あるいは児童生徒の実態とか、学校や子どもの実態とかいった基本方針になっているから、教育委員会の方から、前回のときに具体的なものを提示されて、何度か、教育委員さんが寄るときに、手直しをされたものをいただいて、それをまた手直しをして、こういうふうな形にされて整理をされていますので、私個人とすれば、これでいいだろうと思っています。

松下市長

基本理念として、人を育むということで、この中に教育も含むということでもいいんですかね。

増田教育長

ここに、人を育む教育・スポーツ・文化という文言を入れてもいいですが、上に、次世代を担う教育の実現ということで、教育ということを幅広く捉えています。

松下市長

この育むということで、教育を表現するのかなって思ったけれど、もう上に書いてあるということですね。

増田教育長

実際にその文言を入れますか。

衛藤委員

上に入れているので、それでいいんじゃないかと思います。1番はやっぱりそれですから。それを1番最初に入れてあるから。

松下市長

ぽっと見たときに、人を育むスポーツと文化、なんかスポーツと文化だけしかしないような、そういうイメージがあったけど。

増田教育長

そこをサブタイトルで2つにしたんですね。

松下市長

サブタイトルの前に理念として、教育の実現ということでしてますよということですね。わかりました。他に何かありませんか。

学校の教育に関する大綱策定につきましては、ご提案した議案のとおり
でよろしいでしょうか。

各委員

はい。

松下市長

ありがとうございます。それでは、議案を教育大綱とさせていただきます。
ありがとうございます。

これをもちまして、議事を終了させたいと思っております。

濱田教育部長

ありがとうございました。

では、次第の3その他に移らせていただきます。

この総合教育会議の設置の大きな目的は、市長と教育委員会の連携の強
化となっております。ここでは、意見交換の時間とし、交流を図っていた
だきたいと考えておりますので、何かございましたら、ご発言をお願いい
たします。

松下市長

こんなふうに参加される機会というのは、今までほとんどございません
でしたね。私の思いというのは、なかなか皆さん方には通じない部分があ
ったんじゃないかなと、そんなふう思っております。

今回このような、総合教育会議等々設置にあたりましては、色んないじ
め等々、また、教育委員会の隠蔽体質等々も含めまして、いじめ対策対応
にしても、大変足が遅いという状況の中で、このような総合教育会議とい
うことになったとは思いますが。

皆さん方も教育行政、私も市長部局で財政的な権限を持っておるわけ
でございまして、そういう辺りで皆さん方と一緒に、いろんな方向性
を出していくということは、大変重要なことだと思っております。これか
ら、皆さんと一体になって、進めていきたい。私自身、教育に対しては、
素人でございますので、教育行政に対しまして、ドカドカ土足で上がり込
んで行くということは、決してしませんし、専門家に任せるのが、1番良
いわけでございます。そういう中で、どうしても、なんかお願いしないと
いけない、こういう大きな問題がありますということであれば、それは、
もう一緒になってということで。元々は、部長会議等々で、私の思いとい
うのは、教育長には伝えておりますし、できるだけことは、私もそれを
していきたい。

少子高齢化・人口減に対しましても、教育は大きなウエイトを占めると
いう思いがございまして。教育が良ければ、また、レベルが高ければ、よそ

から子どもさんが入ってくるということもございますのでできるだけ、教育関係は給食・エアコンも含めまして、学校であとすることといえば、トイレ改修はもう済んでいるのか。

田中教育総務
課長

まだ40%いくかいかないくらいです。学校の方からも、もう少し増やしてもらえればというような。

松下市長

学校からの要望等々もしっかり受けながら、やっていきたいなっていう思いはします。そういう中で、皆さん方、何かご意見があれば。

河本委員長

いいでしょうか。先程のご挨拶を聞いていて、市長が予算をとられるのは大変だなと思ったのですが、やはり、私たちからお願いしたいことは、予算っていうことになってくるのですよね。委員が色々な案を出したとしても、予算がなければ、どうしようもないということがたくさんあるものですから。エアコンで大変でしょうけど、徐々にまた色々と予算の面をお願いしたいということがあると思っています。

今、私が具体的に考えている予算としては、先程の委員会ですら少し発言したのですが、学童保育に講師を雇って、子どもたちから1回につき1000円を徴収し勉強を教えてもらい、学力向上に取り組み、成功している市があるのですよね。だから、中間市でも、やはりそういうことをやっていただいて、本当に勉強したい子や塾にいけない子、そういう子どもたちのための、勉強の場所を整えていただきたいと思っています。

松下市長

学童保育の方に対して、それだけの手当をすれば、学童保育に行っていない方はどうするのかっていう話に当然なっていく。

河本委員長

はい、行ってない人も、行けるような形で。

松下市長

そういうような形ですよ。だから、学力向上のために塾的なものをするか、その塾の費用を出している市とかもあるんですよ。どのくらい費用がかかるかっていうのはわかりません。財政的に豊かな市、またそうでもない市があり、まさに行政間で格差があるわけです。もう中学校までやっていると、考えあってやっているわけで、これだけ自治体間で格差があるということは、私自身、情けない話になってくるのですが、ある意味そういうご提案はお受けして、それがどのくらいの予算が必要になるか、学童保育だけじゃなくて、全市的に子どもさんにかかる分は、もたないと

という気がするけれども。

ここで、今、少し財政のことも知っていただきたいなと思います。170～180億の予算で動いていまして、1年間フーフー言いながら、1億くらいの貯金ができる。1億くらいの黒字は、皆さん方もご承知のとおり、国民健康保険というのが、12億くらいの、赤字がたまっている。それが毎年1億ちょいの赤字を出す。私どもが一生懸命貯めた1億っていうのは、国保の赤字対策のために貯めているようなものなんです。だから、貯金は増えるけれども、現実増えたことになっておりません。だから、今も、ぎりぎりの財政運営をやっているっていうのが、現実でございまして、それに加えまして、私の公約として残っているのは、市立病院の建て替えです。市立病院をどうするかって話の中で、ずっとその1億くらいの黒字を出しているのなら、すぐゴーサインを出すのだけれども、今、100万円から200万円の黒字で、いつどうなるかわからない。そういう中で、市立病院を建て替えた場合は、また借金起債の償還で、やっぱり1億くらい必要になる。

だから、いろんなご提案、立派なご提案をするのは、私はいつでもいいんですけど、そういう中で、何を優先するかっていうことで、頭を悩ませるわけでございます。今までやってきたことを、中止して新しくしますよと、今までやってきたことを、中止にするということはものすごい反発があります。そういうことも、職員も頑張ってるんですけどね。そういう中で、今のご提案も、私も頭の中に入れておきますけれども、そういう厳しい運営ということを理解していただきたいなという思いがあります。

河本委員長

今すぐとかそういうことではないのですが、私が一番悔しいと思うのは、今、日本が一番、経済的な学力の格差が世界で大きいのです。だから、ほんとうに貧しい子が学べないといえますか、お金がある子たちはどんどん塾に行って、私立学校に行って、良い教育を受けて、東大に入ったりできますけど、貧しい子は貧しいままという現状がとても悲しいんですよ。だから、そういう子たちにも窓を開けてほしいと思っているので、今すぐとは言いませんが、それで学力が上がった地域があるということも、市長の頭に1つとどめておいていただきたいと思っております。

松下市長

子どもは、やっぱり学力が1番いいというか、中間から東筑に何名行きましたよと、それだけでワーと人気、それは良い悪いは別としてね、特別な事業をするかという話になってくるんですけど。十分教育は大事とい

うことですね。まちづくりに対しても、大きなウエイトを占めているというか、十分示しておりますね。

衛藤委員

今度、日体大と体育の提携をしましたよね。それで、これは大変良いことだと思います。私が1つできることがあれば、考えていただいたらありがたいなと思っているのは、学校の先生方は学力を上げるっていうののプロだと思うんですね。ところが、残念ながら、体力を向上させるためのプロではないんですよね。だから、体力を向上させるためのプロの方と提携されたのであれば、そういう人たちが、小学校のうちに、とにかく体力を上げるというのが一番大事でしょうから、何か小学校に向けての体力向上の、全校統一としての、具体的な何かできないものかなと。先生方にそれを考えてくださいといっても、やっぱりそこは難しいと思います。折角こういうチャンスがあるのであれば、それを活かしていただけたらいいなと。

松下市長

私が、今、お願いしているのが、子どもからお年寄りまで、一緒にできるような健康体操です。中間市独自の。替え歌でもなんでもいい、取り組みやすいようなものです。いきいきサロンなどがありますので、そこで練習させたら、すぐ全市に広がり子どもからお年寄りまで、一堂に会して、体操や、何かイベントをしたいなと思います。

衛藤委員

それは、1つは体育に対して、興味関心を持つとか、体育をより身近に感じるとするという部分だと思いますけどね。体力の向上は、それだけでは、やっぱり限界の部分があると思いますので、やっぱりそういうプログラムのなものがあれば、学校の方は随分、役に立つんじゃないかと思うんですね。

もう1つは、将来国際化っていうのが、ますます進展するだろうというふうに思うんですね。そうすると、どうしても、学校の先生の手ももちろん大事ですけど、ALTいわゆる外国語指導助手の果たす役割が大きくなってくると思うんですね。だから、それについて、今、いろいろな形で市長のお力をいただいて、かなり小学校にも外国語指導助手が行っていますが、やっぱりまだ、これから先、増えるだろうというふうな気がします。予算の問題も今話されましたので、それ以上なんとも言えませんが、少し、頭の隅にでも置いていただけたら。

松下市長

優先順位の話で、今、私がこのように言っているのは、英語とパソコンは絶対に勉強しないとイケないよという話はして、英語っていうのは、イ

ンパクト的に、中間市は英語教育に力を入れていますよって。要するにA L Tを増やしてもいいし、中間市は英語をしっかり小学校からちゃんとこれだけやっています、1日英語しかしゃべらない時間を作っていますとかね、なんかインパクトのあることをしてもらいたいですよ。A L Tを増やしてもいいけど、そうしたら、学校全体が1日日本語を使ったらいけないとか、何か、ぼんと打ち上げてもらったら。

随分前から小学校までA L Tを入れているが、それは小学校の先生のためのA L T。それはまさに、英語を小学校で教えなければいけないという中で、先生たちがどんなふうに使いたいかわからない。だから、先生たちに対する英語のことってということで、これは、よそがするよりだいぶ前に入れている。そういうふうなことでは、対応はさせてもらっているけど。やはり学校は、先ほどの体力向上、大綱どおりの話になってくるわけですね。

個々のご提案については、また教育委員会の場で提案されて、それが、私に回ってきますし、だから、来年、今年3億をエアコンの工事に使って、体育館の補修も今している。来年までは、少しエアコンの工事が残っている。何億くらい残っているのかね。

田中教育総務
課長
松下市長

2億くらいです。

2億くらい残っている。それが、今度、補助金を使えるのか、そうなれば、少しは財政的な余裕も出てくる可能性が。まあ、エアコンがすめば、今言うように、随分楽になってきますし、その分の3億使ったから、3億また教育行政に使えるかというのと、また別の話。しかし、今言うように、少しは余裕が出てきますので、今度はその中で、優先順位をみなさん方で決めてもらって。一発勝負の事業は、私どもはやりやすい。その年だけの話、頑張ればいいっていう。継続性のある事業については、ちょっと慎重にしないと、その金がずっと必要になってくるわけです。今言うように、財政的には少し余裕がたぶん出てくると思いますので、そのときまた考えていったらいいなと思います。

河本委員長

そのことに、ちょっと付け加えたいんですけど、中間市の英語は高いと評価されているんですよ。だから、英語を、中間市の特色として出したらいいと思うんです。そして、この間、発音の勉強をすることによって、どんな単語も読めるっていうようなやり方があるのですが、その授業を、東小学校でやっていたので、見に行ったんですよ。そうしたら、ほんと

うに、最初は、夏休み明けて眠そうにしている子たちが、発音を自分たちですることによって、いきいきして、楽しそうにしているんです。終わって、先生にお伺いしたら発音を学ぶテープみたいなのがあるらしく、それを、毎日、掃除時間でもなんでもいいから流すことによって、必ず、発音は、短期間で身につくということでした。そして、発音を聞くことによって書くこともできるようになるし、それを学べば、どんな単語も読めるんですよね。単語が読めるようになったら強いつておっしゃっていました。だから、そのテープを毎日流すような、教材みたいなものでしたら、単発でできると思いますし、そういうことを取り入れていただきたいと思っているのですが。

松下市長 そういう提案をどんどんしていったら、事務局が、財政課に、どういう説明をするかという説明能力の話になる。

田中教育総務課長 1件訂正させてください。先ほど、エアコン工事の来年分を2億円と言いましたが、私が勘違いしておりまして、残りは6千万か7千万くらいでした。

松下市長 わかりました。

松下市長 皆さん方の熱意というのは、職員が受け止めて、しっかりした対応をしますのですね。まあ、こういう英語とかすると、それがまた中間市の売りになりますからね。そして、日体大との提携も県下でうちしかないわけで、そういう辺りをぼんと表に出しながらすれば。

河本委員長 そして、こういうことをやりますよとPRばかりしていることもありますが、中間市では実際にそういうことをやって、成果を上げたところをPRしてほしいと思っているんです。

松下市長 要するに、よそにそう負けてないという思いはあるが、やっぱりどうしても、テレビで、よそはこんなのをしましたよ、中間市はいつからしてるかという部分もありますね。だから、皆さん方とこのような場を持てるということは、よいことでもありますので、またお願いしたいと思います。

増田教育長 中尾委員、何かありますか。

中尾委員

私からは、特に提案という大それたことではないんですけども、先程の市長のお話の中で、世界遺産があるということで、これからは、ふるさが自慢できるという話があったんですけども、昨年、教育委員会の方で、大牟田の方に視察に行かせていただきました。大牟田ではふるさと教育というのに、とても力を入れておられました。同じ世界遺産があるまちとして、とても参考になりましたので、ちょっと紹介したいと思います。小学生の子どもたちが、観光に来られた方に対して、ガイド役を務められているんです。それも、自分たちが自ら研究して、子どもたちがガイドを務める、文化を説明するということをされておりました。そのことをとおして、子どもたちがわがまちについても、十分に理解を深めることもできて、郷土愛が育っていると聞きました。わがまちを誇りに思う子どもたちがたくさんいることが、この中間市の発展に繋がると思います。

今、世界遺産を説明するボランティアを育成されていると思うんですけど、小学生とか中学生とか、そういう子どもたちも、その中に入れてはどうかと思いました。

片平学校教育
課長

世界遺産決定後の教育委員会の取り組みと致しまして、小学校・中学校につきましては、先日ですが、7月6日に世界遺産決定集会を各学校で実施しております。東小学校につきましては、くす玉割ということで、大々的にやっております。

それから、秋頃につきましては、小中学校に、世界遺産登録記念ということで、記念品をお渡しできたらと、世界遺産推進室の方からお話っております。

10月頃ですが、各国の給食ということで、毎年やっていますが、これを今年は世界遺産にちなんだ献立を作って、それを子どもたちに食べさせようということを考えております。

そして、小学校限定で今、ガイドブックを、世界遺産推進室を中心に作っております。先ほど話が出た、中間市の遺産文化等を折り込んだガイドブックでございますので、それを、テスト形式というか、クイズ形式にして、小学校に検定をさせようかなというような取り組みを考えております。

ポンプ室の見学等も、歓迎遠足や社会見学のコースに入れて、外見ですけど見せていこうと思っております。

そして、中学校につきましては、英語暗唱大会を毎年やっておりますが、その課題を世界遺産ということで、それにちなんだような課題を出して暗唱させようと考えております。

それから、中学生を対象にした地域の宝を学ぼう講演会を、ひびき青年

会議所が、地域の文化ということで毎年お話をしてくださっています。その中で、世界遺産のことも盛り込んで、お話をいただくというふうな形で進めております。

古賀生涯学習
課長

はい。それでは、社会教育、生涯学習課としての取り組みを発表させていただきます。

資料の一番下でございます。7月15日よりザ・ワールド・ヘリテージということで、遠賀川水源地ポンプ室展を地域交流センターで、今開催しております。

また、10月17日の土曜日では、祝世界遺産登録歴史探訪ということで、中間市の近代遺産を歩く、約30名程度の定員で、まず遠賀川の鉄橋、それから唐戸の水門、堀川、それからポンプ室を探訪して行こうというこの企画をしております。

また、11月28日に、世界遺産遠賀川水源地ポンプ室を学ぶ講座として、約50名程度の定員で、全5回程度予定しております。

その他としまして、世界遺産登録記念事業と致しまして、まず、先程、市長が言われましたミズノ、体協と、事業として、ノルディックウォーキング教室やバレーボール教室、これはあの優勝者と言ったらあれですけど、まあそういうときに、世界遺産登録記念と冠をつけたような形で迎えたいと思っています。

それから、創作市民体操の披露、これも先程市長が言われました、中間市オリジナルの体操を、今、日本体育大学と検討してもらっておりますので、10月11日のスポーツフェスタのときに披露ができればなど、そういう計画で進めております。

それから、子供用文化財パンフレットの作成、これは今年補助金がつきましたので、今作成しております。

日本体育大学アスリートによる記念講演を、11月21日か22日、記念事業の中で、メディアに登場しておられる方を希望して、今、大学側とは折衝しておりますが、記念講演等を行っていく計画を立てています。以上です。

増田教育長

こういうふうな形で、世界遺産決定を機に、中間の子どもたちが自信を持ってアピールできるようにという形で、こういう取り組みをやっています。特に、中学生の英語が、中間の文化を英語で言えるということで、色んな形でボランティアにも活用できると思います。また、進めば、小学生は世界遺産がある国内と姉妹校を結んで、そこに色んな情報交換をしても

いいし、中学生になれば、世界の世界遺産文化遺産があるところと姉妹校を結んで、そこに行っても交流ができると思います。ですから、色んな発展の要素が今からあると思います。とにかく、中間の子どもたちに自信を持たせて、この文化を継承させるような形にしたいと思っております。

松下市長

今、芥川賞で又吉さんが騒がれていますが、うちにだっております。そのようなことを、私としては言ってもらいたい。唐戸水門だって、中間市の作った堀川文化だって、垣生公園などいくらでもあるわけでね、そういうようなことを言ってもらいたいと思う。

衛藤委員

その件で、結局、市民が情報を十分に自分のものにしていないという部分があるんですね。言われたらああそうかという話になるからですね。だから、今回の世界遺産もそうだと思うんですよ。やっぱり情報を、市民が自分のものにするために、どういう手立てを打つかというのがですね。1つ私が思ったのが、ダイエーに人が集まってくるのですが、世界遺産の看板も何もないんですね。1番人が集まるから、なんか置かれたらいいのではないかと思うんですよ。

松下市長

新聞の調査では、大牟田市が80%くらい、うちは30何%いつている。北九州市は10何%という話です。子どもから、こういうふうなことをしていただくと、子ども自身がわかりますので。

増田教育長

今度、8月5日に、市の教員の研修会があります。そのときに、改めて、今回世界遺産が決まったということと、中間の子育て支援に対しても、様々な形で市長にやっていただいている、ものすごく条件が恵まれているということで、中間はよそより素晴らしいだぞということを、教員の研修でしっかりとアピールしていこうと思っております。まず、教員から、それをわかってもらって、子どもたちにも言ってもらうのが、本当に早道だと思うんですよ。自信を持たせる意味でもですね。これをPRしていきたいと思えます。

松下市長

他にも中間市世界遺産も含めて、子育て支援で中間市がこんなところですよと、中間に来て下さい、移り住んで下さいってそのアピールをした、大きな冊子を、市外に40万部配って、市内の人というよりも、市外にアピールしています。といいますのは、去年の4月と今年の4月で子どもの数が増えていますので。小学校で50人くらい、中学校で30人くらい

ですね。若い方が移り住んでいただいているっていうことになるんですけどね。

安川電機が今度、100名体制が300名体制に、従業員が200人増えるんですよ。それが、垣生にある雇用促進住宅、民間が買っていますので、そこを少し手直しして、アパート経営でもしていただいたら、中間市に移り住む方が、増えるんじゃないかなという思いはあります。最近、中間市のおかげで、少し元気が出てきましたねって話はですね、市民の方々から賜ります。それと、トリックアートを市内につくって、誘導するようなことを考えております。

濱田教育部長

はい、ありがとうございました。次回の会議の日程につきましては、新年度予算の予算編成の時期であります10月頃に予定しております。日程が決まり次第お知らせしますので、どうぞよろしく願いいたします。

濱田教育部長

それでは、これもちまして、平成27年度第2回中間市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

各委員

ありがとうございました。

[閉会時刻：午前10時55分]